彼女の姉と1日中おまんこした結果
彼女を捨てました

※一部本編と異なる場合があります。

トラック０１

亜美　「は～～い！　今出ま～す！」

亜美　「お待たせしました……って、あれ？　君は確か……」

亜美　「あらあら！　妹の彼氏君じゃない！？　今日はどうしたの？　妹は友達と出かけてるけど……」

亜美　「ん～……？　って、えぇ！？　今日は妹とデートのはず……って……」

亜美　「あぁ……つまり、君は妹を迎えに来てくれたのにあの子はデートの約束を忘れて遊びに行っちゃったと……」

亜美　「あはは～……ごめんね？　ウチの妹、夢中になったら他の事忘れちゃう癖があって……って、あ！　ご、ごめんね！　その、妹が君に興味ないって言ってる訳じゃ無くて、そんな意図はないんだけど……」

亜美　「え、えぇ……っと……とりあえずさ……せっかくウチまで来てくれたのに帰ってっていうのもあれだからさ……よかったら上がってかない？」

亜美　「うん、全然気にしなくていいよ♪　妹は遊びに行っちゃったし、両親も2人共出張で暫くいないし」

亜美　「せっかくの休日なのに私一人で寂しかったから……君と一緒なら楽しそうだな～……って思って」

亜美　「ね……お願い……お茶も出してあげるから……お姉ちゃんと一緒にいてくれる？」

亜美　「それとも～……」

亜美　「お姉ちゃんと2人っきりでお茶するの……嫌かな？」

亜美　「ね～……お願い……私と～……お姉ちゃんと一緒にいて欲しいな～……？」

亜美　「ふふ♪　そっかそっか♪　ありがとうね♪　ちゅ♪」

亜美　「じゃあおいで♪　お姉ちゃん特製の美味しい紅茶、出してあげる♪」

トラック０２

亜美　「おまたせ～♪　はいこれ。私が淹れた紅茶ね～♪」

亜美　「まだ熱いから気を付けてね～……っとぉ……♪」

亜美　「ふふ♪　隣ごめんね～……って、な～に俯いちゃってるの～？」

亜美　「そんなに顔をそらされるとお姉ちゃん傷ついちゃうな～……ねぇ～？　こっち向いて……って、あらら♪　お顔真っ赤っか♪」

亜美　「ふふ……ね～え～？　そのままずぅ～っと顔を逸らしてたら～……君の可愛くて美味しそうな～……お・み・み♪　パクって食べちゃうけど……いいのかな～？」

亜美　「あらあら♪　もう少しで君のお耳食べれたのに……残念♪　ふふ♪」

亜美　「まぁそれはまた後にして～……ね♪　紅茶、冷めない内に飲んでみて？」

亜美　「お姉ちゃんが茶葉から選んだ自信作なんだから♪　気に入ってくれると嬉しいな～♪」

亜美　「ん、どう？　私の紅茶、美味しい？」

亜美　「そっかそっか～♪　良かった～♪　君にはまだ早いかなって心配してたけど杞憂だったみたいだね♪」

亜美　「じゃあ私も……」

亜美　「ん……ずずずっ……ん、ごく……ごく……」

亜美　「んん♪　はぁ……♪　いつも通りとっても美味しい♪」

亜美　「この茶葉はね？　リッラックス効果もあって気持ちが落ち着くんだ～♪　ハーブティーみたいで面白いでしょ♪」

亜美　「どう？　妹にデートドタキャンされた怒りも収まってこない？」

亜美　「ふふ♪　そっか♪　良かった～♪　妹のせいで君が傷つくのは私も嫌だし、あの子の姉として責任はとらないとだから……君が元気になってくれて嬉しいな♪」

亜美　「まぁ、本当は別の目的もあるんだけど……♪」

亜美　「ふふ♪　うぅん、何でもないよ♪　うん、何でもないから……今はね♪」

亜美　「それよりも～♪　ね♪　お姉ちゃんに君の事教えてくれないかな？」

亜美「今までは妹が連れて来た時に挨拶する程度で、こうやってキチンとお話するのは初めてじゃない？」

亜美「折角だし君の事もっと知りたいな～って思って♪　んふふ♪　だって～♪　君ってばすっごく可愛いんだもん♪」

亜美「私ぃ♪　同年代とか年上の男って興味ないから。ああいう人達って変にかっこつけでキザったらしいし、エロい視線丸分かりで気持ち悪いんだもん」

亜美「それに比べて君は～……照れた顔も困った顔もぉ……♪　あぁん♪　すっごく可愛くてお姉ちゃんの好みにドストライクなの～♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　あぁん♪　もじもじしてる姿も可愛いなぁ♪　うぅ～ん、何でこんな健気で可愛い子があんな妹の彼氏なんだろ～……」

亜美「ねぇ、どうして告白なんてしたの？　私から見てもデリカシーの無い不出来な妹だし……あんな子と素直で真面目な君とじゃどうみても不釣り合いだと思うんだけど……」

亜美「え？　顔が好みだから？　ぷっ♪　あはははは♪　あ～♪　そうなんだ～♪　ふふ♪　君ってば意外と直球なんだね～♪」

亜美　「うぅん♪　別にいいと思うよ？　誰かを好きになる理由なんて人によりけりだし。むしろ外見で判断するなんて生物としては一番正常だと思うし」

亜美　「あ、でもそれなら～……お姉ちゃんはどうかな？　姉妹だし君の理想の顔つきに近いと思うんだけど……」

亜美　「それに私、妹よりおっぱいもお尻も大きいし～♪　デートだっていつでもしてあげれるし～♪　お姉ちゃんとしてい～っぱい君の事甘やかしてあげる理想の彼女になってあげられるんだけど～……」

亜美　「ねぇ？　お姉ちゃんの事……好き？」

亜美　「あ、ダメだよ？　目泳がせないで私を見て？　ほ～ら～♪　こ～っち♪　お姉ちゃんの目、キチンと見て？」

亜美　「ね、教えて？　お姉ちゃんの事好き？　今付き合ってる妹よりも……私の方が好き？」

亜美　「あ～……また黙っちゃうんだ～……んもぅ……っあ、でも～……ふふ♪　君ってば……こ～こ♪　おちんぽ♪　おっきく膨らんじゃってるね～♪」

亜美　「あぁ♪　固～い♪　って、こ～ら～♪　暴れないで？　んもぅ……めっ！　だよ？　うん♪　そうそう♪　大人しくしてて？」

亜美「はぁ、はぁ♪　んん♪　わぁ♪　ズボン越しでも分かるよ？　ふふ♪　まだ体は小さいのにおちんぽは元気だね～♪」

亜美「これって～♪　お姉ちゃんでこんなにおっきくしちゃったんだよね？　つまり～♪　私とあんな事やこんな事を想像して～……興奮しちゃったんだよね？」

亜美「んもう、とぼけちゃって～♪　そんなに私に言わせたいの？　変態さんだね～♪」

亜美「例えば～、お姉ちゃんとキスしたり～♪　バスト83桁越えのデカパイでおちんぽコスコスしたり～♪　くっさいおまんこでズポズポしてあげたり～♪」

亜美「そういうエッチな事考えて～……おちんぽ♪　おっきくしちゃったんでしょ？」

亜美「それってぇ……私の事……好きって事でいいんだよね？　お姉ちゃんとエッチしたいくらい好きってことだよね？」

亜美「むぅ～……また目をそらしてぇ……何で素直に言ってくれないのかな～？　もしかして彼女に……妹に負い目を感じてるの？」

亜美「そっか……あんな、君をほったらかしにしちゃうような妹にも負い目を感じちゃうなんて……君ってば本当に優しいんだね」

亜美「あぁ……やっぱり……こんな優しい子、妹にはもったいなさすぎるよ……何で妹にだけこんな素敵な子が寄ってくるの……？　ほんと世の中理不尽……」

亜美「うん……なら仕方ないよね？　だって、妹と君とじゃ全然釣り合ってないし、何よりもお姉ちゃん、君の事すっごく気に入っちゃったから……♪」

亜美「お姉ちゃん……絶対君に好きって言わせるから♪　妹よりも好きって♪　誰よりも愛してるって♪　お姉ちゃんの魅力で、君の事、妹から寝取ってあげる♪」

亜美「今日は寝かせてあげない♪　好きって言ってくれるまで搾り尽くしてあげる♪　ふふ♪　覚悟してね？」

トラック０３

亜美「あらあら♪　おちんぽだけじゃなくて全身固くしちゃって♪　緊張してるの？　それともお姉ちゃんに襲われるの、怖くなっちゃった？」

亜美「大丈夫だよ？　痛くしたりしないから♪　むしろぎゃ～く♪　意識が無くなっちゃうくらい気持ちよくしてあげる♪」

亜美「だから緊張しないで？　ほら♪　深呼吸深呼吸♪　お姉ちゃんと一緒にしよ？」

亜美「そ～れ♪　すぅぅぅ～～～～～～～……♪　はぁぁ～～～～～～～……♪　ふふ♪　もう一度ぉ♪　すぅぅ～～～～～～♪　はぁぁ～～～～～～～～～♪」

亜美「あらあら♪　蕩けた顔しちゃってるね～♪　ん～？　深呼吸して緊張が解れたから？　それとも～……」

亜美「お姉ちゃんのくっさい口臭を嗅いで、発情しちゃったのかな～？」

亜美「そっか～♪　そっかそっか～♪　お姉ちゃんのくっさい口臭で興奮しちゃったのか～♪　スケベだね～♪　変態だね～♪」

亜美「んふ♪　実はお姉ちゃんね？　起きてからまだ一度も歯磨きしてないんだよ？」

亜美「寝てる間に涎臭くなったお口で～……朝ごはんも食べて～……ず～～っとそのまま♪　朝ごはんの食べかすも残ってるくっさ～いお口まんこ♪」

亜美「きっとツンとしたむせ返るようなくっさい吐息だと思うんだけど……ふふ♪　君ってば、こんな匂いで興奮しちゃうんだね～♪」

亜美「な～ら～……♪　もっとも～っと嗅がせて～あ・げ・る♪」

亜美「こうやって～君の鼻先に～……♪　はぁぁ～～～～～～～～……♪　はぁ～……はぁ～～～……♪　すぅ～……はぁぁぁ～～～～～～～……♪」

亜美「ふふ♪　今度は～……んん、お口にいっぱい涎を溜めて泡立てるように～……」

亜美「んん♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

亜美「ふふ♪　いっふぁい臭い香りを溜めて～……♪　ん～♪　はぁぁぁ～～～～～～～～～♪　はぁぁぁ～～～～～～～～～～♪」

亜美　「ん……もう一度ぉ……はぁぁぁ～～～～～～～～
♪　はぁぁぁ～～～～～～♪　はぁぁぁ～～～～～
～～～♪　はぁぁぁ～～～～～～～～～～～～
～♪」

亜美　「ふふ♪　君のズボンが段々湿ってきて……我慢汁
漏れてるの分かっちゃう♪」

亜美　「お姉ちゃんの臭い口臭で濡れちゃったんだね？
あ～ん♪　嬉しいなぁ♪　な～ら～♪　もっとも
～っとお姉ちゃんの口臭嗅がせてあ～げ～る♪」

亜美　「ほ～ら♪　お姉ちゃんのお口よく見てて？　ん～
……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく
ちゅくちゅ……んふふ♪　いふよ～？」

亜美　「ん、はぁぁぁ～～～～～～～～～～～～～～♪
はぁぁぁ～～～～～～～～♪　はぁぁぁ～～～～
～～～～♪　はぁぁぁ～～～～～～～～～～～～～
～～♪♪」

亜美　「ん、ふふ♪　ねぇ……教えて？　君は妹とキスし
た事ある？」

亜美　「そう、キス♪　唇同士を合わせてちゅってする
奴。した事ない？」

亜美　「あ、流石にあるんだ……ならさ、お姉ちゃんとも
しない？　そ、恋人がするみたいなキス♪」

亜美「君の可愛くてプルプルの唇とぉ……お姉ちゃんの涎塗れで歯磨きしてないくっさ～い唇を～……ちゅってしちゃうの♪」

亜美「大丈夫♪　妹には黙っておくし、もしバレてもお姉ちゃんに無理やり襲われたって言っていいから」

亜美「ね？　しよ？　お姉ちゃんとキス♪　くっさい唾液塗れのエッチなキスぅ♪」

亜美「はぁ、はぁ……♪　ふふ♪　そう♪　目をつむって？　君はお姉ちゃんの唇を受け入れるだけでいいから……♪」

亜美「そう……そのままぁ……♪　ん～……ちゅ♪」

亜美「はむ、ちゅ♪　んちゅ♪　ちゅぷ……ちゅ、ん～……ちゅ♪　ちゅ……ちゅぷっ♪　んちゅ♪　ちゅ……れろ……ん、ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪」

亜美「ん、んん～……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪　あぁ♪　すっごいよぉ♪　あぁ♪　ショタの唇ぅ♪　プルップルで甘くってぇ♪　んん♪　あぁん♪　好きぃ♪　君とのキス大好きぃ♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　ん、あぁん♪　ねぇ……♪　もっとぉ♪　もっとキスしよぉ？　ん～ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪　んちゅ♪　ん～……ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「んん♪　もっとぉ……♪　はぷっ♪　んちゅ♪　ちゅ……ちゅぷぷっ！　んちゅ♪　ちゅ……れりゅ……んちゅ♪　ちゅ……ちゅ、ちゅ♪　ちゅぅぅ～……ちゅ♪　ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪」

亜美「んふふ♪　ねぇ、お姉ちゃんとのキス気持ちいい？」

亜美「そっかぁ♪　気持ちいいんだぁ♪　な～ら～……妹と私、どっちのキスが気持ちいい？」

亜美「やぁん♪　ほ～ら～♪　ちゃんとお姉ちゃんの目を見て答えて？　ね？　妹のぎこちないキスよりお姉ちゃんのキスの方が好きって言って？」

亜美「ふぅ～ん？　まだ恋人の妹に義理立てしちゃうんだぁ？　んふふ♪　な～ら～……妹が絶対できない、大人のキスで、君の事犯してあげるね？」

亜美「ん、は～～……む♪　んん♪　じゅるる♪　じゅぷぷぷ！　んちゅ♪　じゅりゅりゅ♪　ん、ん～～……ちゅ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　じゅる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「ん、れろ♪　んちゅ♪　じゅるる……ん、ん～ちゅ♪　ちゅ……ちゅぅぅ、ちゅ♪　ん、ねぇ……もっろぉ……んちゅ♪　じゅるる♪　ん、ちゅ♪　もっろ舌らして～……？」

亜美「そう♪　そのまま～……は～……むっ！　じゅる♪　じゅるるる♪　んちゅ♪　じゅぷぷ！　じゅぷっ！　ん、んん♪　れろ♪　れろれろれろれろ♪　ん、ちゅぅぅ～……ちゅぱぁ♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　ん～♪　もっろべロちゅ～してあげる～……♪　ん～……はむぅ♪　んぷっ！　じゅる♪　じゅるるるぅぅ♪　ん～～ちゅ♪　じゅるる♪　じゅぷじゅぷ……れ～ろれろれろぉ♪」

亜美「ん、じゅるる♪　ん～♪　れろ♪　ん、ちゅぅぅ♪　んちゅ♪　れ～ろれろれろぉ♪　れろれろれろれろ……♪　んちゅ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　れろ、れろれろれろれろ……ん、ちゅぅぅ……ちゅ、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪」

亜美「んはぁ……♪　ふふ♪　どう？　これがベロチュ～だよ？　って、あらあら～♪　こんなに涎垂らして～♪　あぁん♪　下品なショタ顔可愛い～♪」

亜美「なら～♪　キスだけでおちんぽぴゅっぴゅしちゃうくらい、沢山お口愛してあげる♪」

亜美「ほら、口開けて～？　お姉ちゃんの唾液ジュース飲ませてあげる♪　ん～……くちゅくちゅくちゅ　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

亜美　「ん……ほら、いふよ～？　お姉ちゃんの唾液ジュース、上手くキャッチしてね～？」

亜美　「ん、んぷっ……ん……んん……れ～～～～～……♪　ん、じゅるる……ん、んちゅ♪　もう一度ぉ……ん、れ～～～～～～～～～～……♪　ん、はぷっ……♪　ん、じゅるるる♪　ん、えぷっ……♪」

亜美　「良くキャッチ出来たね～♪　上手上手ぅ♪　じゃあそのままごくごく飲んで～？　うん♪　ごくごく♪　ごくごくぅ♪」

亜美　「あはは♪　お姉ちゃんのくっさい唾液ジュース全部飲めたね～♪　偉いえら～い♪　ふふ♪　いい子いい子～♪」

亜美　「あぁ～♪　君が唾液を飲むの見てると～♪　お姉ちゃんも君の唾液ぃ……また飲みたくなっちゃったな～♪」

亜美　「という事で～♪　君のお口から唾液ジュース♪お替りさせてもらうね？」

亜美　「ほら、お口開けて～？　ふふ♪　いただきま～す♪　あ～……む♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅぷぷぷぷ！　ん、ん～～♪　じゅるる♪　じゅぷぷっ！　んちゅ♪　れ～ろれろれろれろれろれろれろ♪」

亜美
「んふふ♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅ～～♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん、ちゅぅぅ～～♪　ちゅ、ちゅ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる……ん、ん～……ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「ん、はぁ、はぁ♪　ふふ♪　妹と交わしたキスの記憶を～……ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　ぜ～んぶお姉ちゃんとのキスでぇ♪　上書きしてあげる♪」

亜美
「ん……れ～～……♪　じゅるる♪　んちゅ♪　じゅぷぷっ！　ん～ちゅ♪　ん～～ちゅ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅぷっ！　んちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　じゅるじゅる♪　んちゅ♪　ちゅぅぅ～ちゅ♪」

亜美
「んちゅ♪　ん、れろれろれろれろ♪　ん……んふふ♪　しゅきぃ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　はぷっ♪　んちゅ♪　じゅぷ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ん、あらあら♪　顎に涎が垂れちゃって……もったいないから……ん、れ～～……んちゅ♪　ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪　ん、れ～……ろれろれろ♪　ん～ちゅぱぁ♪　はぁ、はぁ♪」

亜美「ふふ♪　あぁ♪　見てぇ？　お姉ちゃんのお口の中ぁ♪　ん……あぁ～～～～～……ん♪　ふふ♪　見えたかな？　君の涎がお姉ちゃんの口に溜まってるの♪」

亜美「これを～……お姉ちゃんの涎ろくちゅくちゅ混ぜれ～……んん♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

亜美「そしれ～……このまま～……ん、ごく……ごく……ごく……ごく……ごく……♪　ん、ごく……ごく……ごく……ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪」

亜美「あぁ～♪　涎美味しい～♪　んん♪　君と体の内から一つになれたみたいでお姉ちゃん嬉しくなっちゃうよ～♪」

亜美「あ♪　ついでに～♪　君の口臭が混じったお姉ちゃんの香り♪　嗅がせてあげるね～？」

亜美「すぅ～～……♪　はぁぁぁ～～～～～♪　はぁぁぁ～～～～～♪　すぅ～～……はぁぁぁぁ～～～～～～～～～～～～～～～～～～♪」

亜美「あぁん♪　凄いよ～♪　自分でも分かっちゃう♪　今の私のお口ぃ♪　とっても臭くって～♪　んん♪　はぁぁ～～～～～♪　ふふ♪　あぁ♪　くっさ～♪　くっさぁぁあ～～～～～～～～♪」

亜美「はぁ、はぁ……♪　ん、ごく、ごく♪　ぷはぁ♪　ん？　ふふ♪　大丈夫だよ♪　大好きな君の唾液だもん♪　好きな子の唾液で口臭くなるならむしろ嬉しいもん♪　相手の全てを受け入れる、それが本当の愛って事でしょ？」

亜美「あ、もしかして～……君の彼女……妹は唾液ごっくんしてくれなかったの？　それとも～、臭すぎてペッって吐かれちゃったとか？」

亜美「あぁ～……その顔、図星なんだ～？　あらあら、キス嫌がられた挙句吐かれちゃうなんて酷いね～」

亜美「本当に好き同士なら絶対ごっくんしてくれるのに……やっぱり妹は君の事、本当は好きでもなんでもないんじゃないかな～？」

亜美「だって～、セックスもしてくれないし～、ベロキスもしてくれないし～、キスしたら吐かれちゃったんでしょ？」

亜美「そんな酷い彼女より～……胸もお尻も大きくて厭らしい、君の事が大、大、だ～い好きなお姉ちゃんと～スケベなお付き合いした方がいいと思わない？」

亜美「もしお姉ちゃんと付き合ってくれたら毎日キスして唾液飲ませてあげるよ？　おっぱいちゅうちゅうしていいし、おまんこも味わわせてあげるよ♪」

亜美「ふふ♪　ほ～ら♪　このデカ乳もぉ♪　デカすぎて便座からはみ出ちゃう桃尻もぉ♪　み～んな好きにしていいの♪」

亜美「君が望むなら同棲してもいいし、結婚を前提にお付き合いしてもいいよ～？　ね？　だからお願～い♪　お姉ちゃんの事好きって言って？　彼女より好きって♪　妹より好きって♪」

亜美「んん……！　もう、何で好きって言ってくれないの～？　はぁ……ほんっと意地っ張りなんだからぁ……！」

亜美「でも……ふふ♪　そういう強がりな君も可愛くて好き♪　ん、ちゅ♪　ん～……ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「なら好きって言ってくれるまでお姉ちゃんがキスしてあげる♪　ねっとりと、くっさ～い涎で君の事、お姉ちゃん色に染め上げるんだから♪　ふふふふ♪」

トラック０４

亜美「ん……じゅるる♪　んちゅ♪　ちゅぷっ！　ん、ちゅ♪　れろ……れろれろ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅぷぷっ！　んちゅ♪　ちゅ、ちゅぅ～……ちゅ♪」

亜美「あむ♪　れろ、れろれろれろ……んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる……ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪」

亜美「ねぇ……まだ好きって言ってくれないの～？　ん～ちゅ♪　れろ……れろれろれろれろ……んちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるるるるるぅぅ……んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　もう1時間以上キスしっぱなしで～……ん、れろれろ……じゅるる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　はぁ……流石に唇も、ん、カサカサしてきて……んちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるぅ♪　ちゅ、ちゅ♪　まぁそれでも続けるけど～♪」

亜美「ん～ちゅ♪　れろ♪　れろれろれろれろ♪　じゅるる♪　ん～ちゅ、ちゅ♪　んもぅ♪　君ってば強情すぎぃ……はぁ、はぁ……♪　あ～……む♪　んちゅ♪　じゅるる♪　れ～ろれろれろ……んちゅ♪　れろ……ちゅ、ちゅ……ん～、ちゅ♪」

亜美「はぁ……こうなったら……もっと直接的に君の性欲を煽ってあげる必要がありそうだね～……例えば～……こ～こ♪　君のおちんぽとか♪」

亜美「ふふ♪　ずっとキスしてたから、おちんぽシコシコしたくて我慢の限界でしょ？　あはは♪　慌てないで？　大丈夫♪　お姉ちゃんが今ズボンから出してあげるね～♪」

亜美「よいしょっと……こうやってチャックをおろしてぇ……ズボンを～……えい、えい♪」

亜美「あはは～♪　ズボン脱げちゃったね～♪　って、わぁ♪　君のおちんぽすっかり勃起しちゃってぇ……♪　やぁん♪　ちっちゃいソーセージみたいで可愛いね～♪」

亜美「それにぃ♪　おちんぽぜ～んぶ皮に包まれてぇ♪　ふふ♪　ショタらしい包茎ちんぽ♪　あぁん♪　恥ずかしがってピクピク震えてる～♪　んもぅ♪　可愛いすぎだよ～♪」

亜美「ふふ♪　ね～ぇ？　君って気づいてる？　今の君ね？　彼女の家のリビングで～おちんぽ丸出しにしてるんだよ？　しかも～♪　お姉ちゃんの目の前で♪」

亜美「彼女に内緒で別の女性におちんぽ見せつけるなんて～……これってもう、正真正銘……う・わ・き♪　だよね～？　ふふ♪　もし写真なんて残したらぁ、大変なことになっちゃうかもぉ♪」

亜美「って、あぁん♪　そんな泣きそうな顔しないで～♪　大丈夫だよ～？　妹には内緒にしててあげるから♪　ほ～ら♪　安心して？　お姉ちゃんを信じて？　ね？」

亜美「うんうん♪　大丈夫大丈夫……って、あらあら～♪　んもぅ、顔は泣きそうなのにおちんぽは益々元気になっちゃって～♪」

亜美「んふふ♪　そっか～♪　君ってばぁ、彼女の姉と浮気して～、興奮してるんだ～♪　ふ～ん？　イケナイ子だね～♪　エッチな子だね～♪」

亜美「おしっこの穴もチン皮から見え隠れして……♪　はぁ、はぁ♪　ん……ねぇ？　おちんぽ♪　皮から出して欲しい？　お姉ちゃんの長い指でチン皮の端をつままれて～……ムキムキ～っておちんぽ、外に出して欲しい？」

亜美「ふふ♪　いいよ～？　お望み通り、お姉ちゃんのお手手で君の包茎、剥いてあげる♪」

亜美「で～も～♪　ただでチン皮剥くのもつまらないからぁ……」

亜美「ねぇ……♪　お姉ちゃんとゲームしよっか♪」

亜美「うん♪　ルールは簡単♪　今からお姉ちゃんが君のお耳を、涎塗れでくっさ～いベロで～……れろれろれろ～って舐めながらおちんぽいじいじしてあげる♪」

亜美「君は私の責めに耐えて射精しなければ勝ち♪　ご褒美にお姉ちゃんの体好きにしていいよ？」

亜美「でも逆に～♪　お耳ペロペロされておちんぽぴゅっぴゅしたら君の負～け♪　チン皮は剥いてあげないし、ご褒美もなし♪　逆にお姉ちゃんがお仕置きしてあげる♪」

亜美「ふふ♪　どう？　簡単でしょ？　唇同士のキスと比べれば耳舐めなんて大したことないもんね～♪」

亜美「じゃあこのまま～……お耳の中……失礼しま～す♪」

亜美「ふふ♪　ん～……ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪　ふふ♪　お耳、キスしちゃった♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「もっとぉ……♪　んちゅ♪　ちゅぷっ……ん～、ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪　はぷっ、んちゅ♪　ちゅぷっ♪　ん、ちゅ♪　れろ……んちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪」

亜美
「ん？　あれあれ～？　耳こんなに赤くしちゃってぇ♪　おちんぽもぉ♪　チン皮の中でピクピクしってるよ～？　君ってばぁ♪　お耳にキスされても感じちゃう変態さんだったんだ～？」

亜美
「これは～……ふふ♪　簡単におちんぽぴゅっぴゅしちゃうかもね～？　うわ～♪　雑魚雑魚ちんぽ君だ～♪」

亜美
「んん？　まだ全然耐えられるって～？　あらあら～♪　強がっちゃって～♪　可愛いな～♪」

亜美
「いいよいいよ～♪　その強がり、いつまで続くか見ものだね～♪　ん～、ちゅ♪　えへへ♪　ならもっとぉ……お耳の奥までしゃぶって～……おちんぽぴゅっぴゅさせてあ～げ～る♪」

亜美
「ん、あ～……んむぅ♪　んちゅ♪　じゅる……ん～、ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん、れろ……ん、ちゅ♪　ん～……ちゅ♪　れろ……れろれろれろれろ～♪」

亜美
「ん～ちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるるぅ～……んん♪　れろ、れろれろ……ん、ちゅ、ぷはぁ♪　はぁ～……ん、ちゅ♪　ふふ♪　君のお耳、お姉ちゃんの唾液でベトベトだね～♪」

亜美
「ん、れ～……じゅるる♪　ん、ちゅ♪　ふふ♪　分かるかな～？　今ね？　私のベロに君のくっさ～いみ・み・カ・ス♪　沢山散らばってるの♪」

亜美
「はぁ～……♪　ショタ童貞君の黄色くてくっさいお耳のカスぅ♪　んん♪　やぁん♪　舌の上でコロコロ転がってぇ～♪　ふふ♪　今からこれ、ごっくんしてあげるね～♪」

亜美
「ん～……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　ん……よく聞いててね～？　ん、ごく……ごく……ごく……ごく……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ～……♪」

亜美
「あぁ♪　唾液と合わさってぇ……んん♪　臭くて美味しい～♪　もっとぉ♪　もっと耳カス食べさせて～？」

亜美
「ん、あ～……むぅ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅりゅじゅりゅじゅりゅじゅりゅ♪　ん～～♪　ちゅ♪　れろ……れろれろれろれろぉ♪　んふぅ♪　耳カスぅ♪　もっろぉ～……♪」

亜美
「ん～♪　れろれろれろれろぉ♪　じゅるる♪　んりゅ♪　じゅる……ん～……ちゅぷ♪　んちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　ん、れ～……じゅる♪　じゅるじゅるじゅるじゅる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「んふふ♪　あらあら♪　お股ムズムズさせてぇ♪　おちんぽ興奮してるの～？　ぴゅっぴゅしたいの～？」

亜美「あ～あ♪　この調子なら勝負は私の勝ちかもね～♪　ん～ちゅ♪　れろれろ♪　ん～ちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるじゅるじゅるじゅる♪　ん～……れろ、れろれろれろれろ～……♪」

亜美「んん♪　はぁ、はぁ～♪　本当にくっさいお耳～♪　って、え？　何？　手加減して欲しいの～？　んもぅ、仕方ないな～♪　なら耳舐めは一旦やめにして～……今度はおちんぽを虐めてあげるね～♪」

亜美「ほ～らお姉ちゃんの指見てぇ？　こうやって～……指先をチン皮と亀頭の間に滑り込ませて～……敏感な亀頭を～……コスコス～♪　コスコス～♪」

亜美「あん♪　ふふ♪　腰ビクってしたねぇ♪　ここ、そんなにいいんだ～？」

亜美「そうだよねぇ♪　ず～っとチン皮の中で隠れてたのに、いきなり触られたらビックリしちゃうよね～♪　あぁん♪　恥ずかしがり屋な童貞ちんぽ～♪　君にお似合いで可愛いね～♪」

亜美「はぁ～♪　虐めがいのある可愛いおちんぽ～♪　も～っとチン皮の中でコスコスしてあげる♪」

亜美「ほ～ら♪　チン皮広げてお姉ちゃんの指が入っていくよ～？　そ～れ♪　おちんぽコスコス～♪　おちんぽコスコス～♪」

亜美　「あはは♪　私の指、おちんぽの段差まで来ちゃったね～♪　このまま段差に沿って～……おちんぽ一周しちゃお～っと♪」

亜美　「ふふ♪　おちんぽコスコス～♪　おちんぽコスコス～♪　ついでにお耳も～……ふぅぅぅ～～～～～～……♪　ふっ、ふっ♪　ふぅぅぅぅぅ～～～～～～～～……♪」

亜美　「んん♪　好きぃ～……♪　あぁん♪　お姉ちゃんにされるがままの君が可愛くて可愛くてぇ～……♪　んもぅ♪　好き～♪　大好きだよ～♪」

亜美　「ね♪　おちんぽ弄られながらお姉ちゃんの吐息も感じて？　耳カスごっくんしたくっさい吐息♪メスの発情したと～い～き♪」

亜美　「はぁ、はぁ……♪　すぅ～……はぁぁ～～～～～♪　はぁぁ～～～～……♪　はぁぁぁ～～～～～～～～～～～～～～～♪」

亜美　「ん、はふぅ～～……♪　ん～？　な～に～？　お姉ちゃんに寄りかかっちゃって～♪　もう一人で座ってられないくらいトロトロに蕩けちゃったんだぁ♪」

亜美　「うん♪　いいよ？　お姉ちゃんのおっぱいに寄りかかって？　君にしか触らせないお姉ちゃん特製のおっぱいクッション♪　柔らかくてあったかい、天然クッション♪」

亜美
「ほ～ら♪　むぎゅぅ～～～♪　むぎゅぅぅ～～～～♪　ん、あぁんもぅ♪　やだぁ♪　可愛すぎぃ♪　んん♪　ぎゅっぎゅ♪　ぎゅっぎゅぅ～～～♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ふふ♪　あぁ♪　おちんぽからまた我慢汁漏れてる♪　元気なおちんぽだねぇ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　えへへ♪　そろそろぴゅっぴゅしたくなってきたかな？」

亜美
「えぇ～？　まだ我慢できるんだ～♪　ふ～ん♪　強がっちゃって～♪　男の子だね～♪　なら～……おちんぽコスコスされながらの耳舐め、最後まで我慢できるかお姉ちゃんに見せて？」

亜美
「ん♪　れ～……ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅるじゅるじゅるじゅる♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん、れ～……ろれろれろぉ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ちゅ♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅぷぷ♪　ん、ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「はぁ……♪　ん、ちゅ♪　あぁ♪　君のおちんぽからオスの匂い香ってくるぅ♪　んん♪　すん、すんすん……すぅぅ～～～～……はぁぁ～～～～～～……♪　くっさいオスの香りぃ♪　んん♪　好きぃ♪　君の匂い大好きぃ♪」

亜美
「はぁ、はぁ……♪　んん♪　はぁぁ～……♪　ふふ♪　お姉ちゃんの吐息くすぐったい？　ごめんね～？　でも勝手に漏れちゃうから止められないの～♪」

亜美
「だってぇ♪　こ～んなくっさい君の匂い嗅がされたらぁ……♪　んん♪　あぁん♪　刺激されちゃうぅ♪　お姉ちゃんの交尾欲求ぅ♪　メスの本能揺さぶられて吐息漏れちゃうの～♪」

亜美
「ん、すぅぅ～～～～……♪　はぁぁぁ～～～～……♪　あぁ♪　くっさ～……♪　んん♪　お耳もおちんぽも、唇も～♪　君ってば全身臭すぎぃ～♪　は～♪　くっさ～♪　くっっっさぁ～～～～～～～～♪」

亜美
「はぁ、はぁ……♪　こんなくっさい匂い～、お姉ちゃん以外のメスに嗅がせちゃダメだよぉ？　もし妹に嗅がせたりしたら絶対罵倒されて振られちゃうんだから♪」

亜美
「まぁお姉ちゃん的には別れてもらった方が、んん♪　都合がいいんだけど♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　んん♪　すぅ～～……はふぅ～……♪　こんな交尾する気満々のオス臭嗅がされちゃ、あぁん♪　私もぉ♪　もっと虐めたくなっちゃうよぉ♪」

亜美
「チン皮の中に溜まったカウパーを指で絡めとって、指でくちゅくちゅ弄びながら～……ん～……ちゅ♪　れ～ろれろれろれろぉ♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅるじゅる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「はぁ～♪　君の大好きな耳舐め～♪　くっさいお耳とのベロキスぅ♪　ん～ちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるるるぅ♪　ん、ぷはぁ♪　はぁ……♪　んん♪　沢山してあげる～♪」

亜美
「ん、れ～ろれろれろぉ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　じゅる♪　れ～ろれろれろぉ♪　ん、ちゅ♪　じゅるる♪　じゅる♪　ん、ちゅぅ～……ちゅ♪　れろ、れろれろれろれろぉ♪　んちゅ♪　ん～、ちゅ♪」

亜美
「はぁ～～……耳カスまた取れたね～♪　ふふ♪　な～に～？　お姉ちゃんがごっくんするの期待してるの～？」

亜美
「ならお望み通りもう一度～♪　お姉ちゃんの唾液とくちゅくちゅ混ぜてぇ♪　くっさい耳カスジュースぅ♪　ごっくんしてあげる♪」

亜美
「んん♪　んむ……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

亜美
「んふふ♪　よふ聴いててね？　んむ♪　ごく……ごく……ごく……ごく……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪　あぁ♪　耳カスくっさ～♪　うぷっ♪　あぁん♪　下品な声出ちゃうぅ♪　くっさい耳カスでメスになっちゃうぅ♪」

亜美
「はぁ、はぁ……♪　ふふ♪　このまま～♪　お姉ちゃんのくっさいお口でぇ……お耳♪　れろれろ犯してあげるね～？」

亜美
「ん～ちゅ♪　れ～ろれろれろれろれろぉ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるるぅ～……♪　んちゅ♪　れ～ろれろれろぉ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる♪　じゅぷぷっ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「んふぅ♪　最後に～……ふぅぅぅ～～～～～～～～♪　ふっ、ふっ♪　ふぅぅぅぅ～～～～～～～～～～～～♪」

亜美
「ふふ♪　お姉ちゃんのくっさい吐息でお耳綺麗になったね～♪　って、えぇ？　もっとふぅふぅして欲しいの？　あらあら♪　甘えんぼになったね～♪」

亜美
「いいよ～♪　段々素直になってくれてお姉ちゃん嬉しいし♪　いっぱいふぅふぅしてあげる♪」

亜美
「ん、すぅぅ～～～……ふぅぅぅ～～～～～～～～♪
ふぅぅ～～～～♪　ふぅぅ～～～～～♪　ふ
ぅぅぅぅ～～～～～～～～～～～～～～～～♪」

亜美
「更に～♪　はぁぁぁ～～～～～～～～～♪　はぁぁ～
～～～♪　はぁぁぁ～～～～～～♪　はぁぁぁぁ～～～
～～～～～～～～～～～～～♪」

亜美
「ん、スンスン……うっわ～♪　くっさ～♪　君の
お耳ぃ♪　私の唾液と吐息で蒸れてベットベト～
♪　あぁん♪　臭すぎ～♪　あぁ♪　くっさ～♪
くっさ～～～～～～♪」

亜美
「はぁ～……♪　ん♪　すんすん……すぅぅ～～～
～……はぁぁ～～～～～～……♪　あぁ……♪　ほ
んとに臭すぎぃ♪　くっさ～♪　耳カスくっさ～
～♪」

亜美
「こんなにくっさい香りまき散らしちゃお外歩けな
いよ～？　勿論、妹に会えば引かれる事間違いな
し♪　こんなくっさい彼氏とは付き合えないって
言われちゃうかも～♪」

亜美
「あぁん♪　泣かないで～♪　大丈夫だよ～♪　も
し別れたらお姉ちゃんが一生養ってあげるからぁ
♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「お姉ちゃんならオス臭い君をいつまでも愛してあげるよ？　汗をいっぱいかいたくっさい君も好きだし、虐められてオスの香りまき散らしちゃうくっさい君も愛してあげる♪」

亜美「チンカスの溜まったくっさい包茎ちんぽも愛してあげるし、君の出したてほやほやのくっさいおしっこもごっくんしてあげる♪」

亜美「だって～♪　お姉ちゃん、君の事本気で好きだから♪　可愛い君が好き♪　虐められて泣きそうな君も好き♪　ふふ♪　大好き♪　愛してるの♪」

亜美「だから～♪　君もお姉ちゃんの事愛して？　好きになって？　この世の誰よりも、妹よりも♪　お姉ちゃんの事好きになって？」

亜美「はぁ、はぁ……♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪れ～ろれろれろぉ♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅるじゅる♪　じゅるるる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「ふふ♪　キスでくっさい吐息のおすそ分け♪　君のお耳も唇もぜ～んぶ私のメスの香りでマーキングしちゃうんだから♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「はぷ♪　れ～ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　れろ、れろれろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅるるるぅ～～……♪　んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　あぁ……♪　忘れてたぁ♪　チン皮の中に指、入れっぱなしだったね～♪　んふふ♪　なら一回指を抜いてぇ……」

亜美「あらあら～♪　指に白い塊が絡み付いて～♪　これぇ～♪　君のチンカスだよね～？　わぁ♪　こんなにこってり張り付いて……すん、スンスン……はぁぁ～……♪　あぁ♪　これぇ♪　精子の蒸れた香りぃ♪」

亜美「あぁ♪　こんな臭いチンカスをお姉ちゃんに嗅がせるなんて～♪　あぁん♪　こんなのダメ～♪　お姉ちゃんおかしくなるよ～♪　あぁ♪　君のチンカスでメスになるぅ♪　ショタちんぽのオナホになっちゃうぅ♪」

亜美「んん♪　ふぅ♪　ふぅ～♪　んふぅ……♪　あぁ♪　好きぃ♪　あぁ♪　くっさいチンカス好きぃ♪　あぁ♪　ショタちんぽの熟成チンカスぅ♪　おちんぽのカスぅ♪」

亜美「スン♪　スンスン♪　すぅぅ～～～……♪　はぁぁ～～～～……♪　うっ！　おぇ！　うぶっ！？　お、おえぇぇえぇぇぇぇ……！！」

亜美「うぶ！？　げほっ！　ゲホゲホっ！　うぶ……おえぇぇ……♪　ふふ♪　あぁ♪　くっさ～♪　臭すぎてぇ～……おえぇぇぇぇ……♪　けほけほっ……ふふ♪　お姉ちゃん、下品に嘔吐いちゃった♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　ねぇ～♪　もう一回キスしよ～？　お口直しに君の涎飲ませて～？」

亜美「ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　ふふ♪　れ～ろれろれろぉ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる♪　ん、ちゅ♪　れ～ろれろれろぉ♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅりゅ～♪　ん～……ちゅ♪」

亜美「ふふ♪　お姉ちゃんと涎の橋でつながっちゃったね～♪　ん～……じゅるる♪　んちゅ♪　はむ♪　ごく、ごく……えへへ～♪　ご馳走様～♪」

亜美「ん～？　またお姉ちゃんの口臭嗅ぎたいの～？　あらあら♪　段々欲望に素直になってきたね～♪　お姉ちゃん嬉しい♪」

亜美「いいよ～？　お姉ちゃんのくっさい口臭、嗅がせてあげる♪　すぅぅ～～……はぁぁ～～～～～……♪　はぁぁ～～～……♪　はぁぁぁ～～～～～～♪」

亜美「もう一度ぉ♪　はぁぁ～～～～♪　はぁぁぁ～～～～♪　はぁぁぁ～～～～～♪　すぅぅ～～……はぁぁぁぁ～～～～～～～～～～～～♪」

亜美「あぁん♪　クンカクンカ鼻息激しい♪　腰も浮いちゃってぇ♪　もうイキそうなの？　包茎ちんぽぴゅっぴゅしちゃうの？　敗北射精ぴゅっぴゅしちゃうの～？」

亜美「あはは♪　んもう♪　君ってば勝負の事忘れてたでしょ～？　ふふ♪　そっか～♪　お姉ちゃんの口臭に夢中で忘れちゃってたんだ～♪」

亜美「ふふ♪　そんな調子で大丈夫かな～？　え～？だって～……♪　まだこ～っち♪　反対のお耳ペロペロが残ってるんだよ？」

亜美「すぅぅ～～……はぁぁぁ～～～～～♪　はぁぁぁ～～～～♪　はぁぁぁ～～～～♪　すぅ～……はぁぁぁぁぁ～～～～～～～～～～♪」

亜美「もう一度～♪　今度は……すぅ～……ふぅぅ～～～～♪　ふぅぅ～～～～♪　ふぅぅ～～～～♪ふぅぅぅぅぅぅ～～～～～～～～～～～～♪」

亜美「このまま～……お耳の奥まで一気に～……ん、れ～～～～～……♪　んちゅ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　れ～～～ろれろれろ～♪　んちゅ♪　れろれろ……ちゅぷ♪　れろ♪　ん～ちゅ♪ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「はぁ～♪　んちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　ふふ♪　こっちも耳カスたっくさん♪　あぁ♪　くっさ～♪　くっさい耳カスいっぱ～い♪」

亜美
「あ～んむ♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅ～～♪　んちゅ♪　れ～ろれろれろ～♪　ちゅぷっ♪　んちゅ♪　れろれろ……ん、ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「ん、ちゅ……じゅるる……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪　ふふ♪　こっちの耳カスもぉ……涎と混ぜてぇ……♪」

亜美
「ん～……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

亜美
「そのまま～♪　ごく、ごく、ごく、ごく♪　ん、ぷはぁ♪　はぁ、はぁ……♪　あぁ～くっさ～い♪　はぁ、くっさ～♪　臭すぎ～♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　やぁんもう♪　お姉ちゃん、もう君のお耳の虜になっちゃった～♪　あぁ♪　くっさ～♪　お耳くっさ～～♪　この臭さが堪らないの～♪」

亜美「ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　もう手加減しないからね～？　お姉ちゃんを虜にしちゃうくっさいお耳は～♪　君が射精しちゃうまでず～っとしゃぶり続けてあ～げ～る♪」

亜美「あ～……む♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅ～～♪　んちゅ♪　れ～ろれろれろぉ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　じゅぷっ♪　ん、ちゅぅ～……ちゅ、ちゅ♪」

亜美「はぁ～♪　おえぇぇ～♪　くっさ～♪　お耳くっさ～～♪　んふふ♪　ふぅぅ～～～～♪　ふっ♪　ふぅぅぅ～～～～～～～～♪　ん、あ～……むぅ♪　じゅるる♪　じゅるるる～♪　んちゅ♪　ちゅぷっ、ちゅ、ちゅ♪」

亜美「んちゅ♪　んふふ♪　ねぇ？　おちんぽ限界？　だってぇ～……ほ～ら♪　れ～ろれろれろれろれろれろれろ～♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅ～～♪　じゅるる♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「ふふ♪　おちんぽピクピク空撃ちしちゃって～♪　もう力入れ続けないとぴゅっぴゅしちゃうんだよね？　我慢の限界なんだよね？」

亜美
「あはは♪　歯も食いしばって必死に耐えてる君のか～お♪　真っ赤っかで可愛すぎだよ～♪　ん～ちゅ♪　れろれろ♪　れ～ろれろれろ～♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅ～～♪　ん～ちゅ♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ねぇ～？　おちんぽ辛いでしょ？　お姉ちゃんの耳舐めで気持ちよくぴゅっぴゅしたいんでしょ？」

亜美
「ふふ♪　別にいいじゃない♪　妹には内緒にしてあげるから～♪　彼女のお姉ちゃんに犯されて涎垂らしながら無様な敗北射精しちゃっても内緒にしてあげるから～♪」

亜美
「だから～……ほら♪　おちんぽイっちゃお？　えっろ～い年上のお姉ちゃんに甘えながら敗北射精ぴゅっぴゅしちゃお♪　ふふ♪　そ～れ♪」

亜美
「れ～ろれろれろれろれろれろれろ～♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅ～～♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん～ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　んふふ♪　ほらイケ♪　イっちゃえ♪」

亜美
「耳カスしゃぶられておちんぽビクビクイっちゃえ♪　ほ～ら～♪　ほらほらほらほら～♪　ん～じゅるる♪　じゅるるる♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅ～～～～♪」

亜美

「れ～ろれろれろれろれろれろれろれろれろ♪　んふふ♪　イケ♪　おちんぽイケイケ～♪　おちんぽぉ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ほら～♪　おちんぽぴゅっぴゅ♪　おちんぽぽぴゅっぴゅ～♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅ～～♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるるるぅぅぅ～～～～～～♪」

亜美

「ん、きゃぁん♪　やぁ♪　あぁ♪　あらあらあらあら～♪　ふふ♪　やぁん♪　おちんぽ凄いぃ♪　あぁ♪　ぴゅっぴゅって♪　きゃん♪　壊れた噴水みたいにドピュドピュ溢れてる～♪」

亜美

「あぁん♪　やぁ♪　あぁ♪　可愛い♪　すっごく可愛くて無様なおちんぽ射精～♪　あぁん♪　いいよ～♪　気持ちよく出して～？　ほ～ら♪　おちんぽぴゅっぴゅ♪　おちんぽぴゅっぴゅ～♪」

亜美

「金玉も揉んであげるからぁ♪　ほ～ら♪　気持ちいい包茎ミルクいっぱい出そうね～♪　それそれ♪　おちんぽぴゅっぴゅ♪　おちんぽぴゅっぴゅ～♪　ぴゅぴゅぴゅ～♪　ぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぅぅ～～♪」

亜美

「はぁ、はぁ……♪　ふふ♪　あれあれ～？　もう打ち止め～？　意外とあっけなかったね～♪　やっぱり～、彼女がいるのにお姉ちゃんにぴゅっぴゅさせられちゃう雑魚雑魚包茎ちんぽじゃ仕方ないか～♪」

亜美　「んふふ♪　あぁ♪　くっさ～い♪　リビングが君の包茎ミルクで汚れてイカ臭くなっちゃった～♪」

亜美　「人の家をイカ臭くしちゃうようなイケナイおちんぽには～♪　お姉ちゃんが直々にお仕置きしてあげるね♪」

トラック０５

亜美「ふふ♪　ね～え♪　敗北射精したお仕置きしてあげるから、服♪　全部ぬごっか♪」

亜美「あぁん♪　そんな恥ずかしがった顔してもだ～め♪　お姉ちゃんに負けたんだからきちんと命令には従ってね？」

亜美「それに～♪　私も一緒に裸になるから♪　うん♪　そうだよ～？　2人で一緒に裸になるの♪　ふふ♪　一緒に脱ぎ脱ぎしちゃおうね～♪」

亜美「ん、ふぅ～……ん、んん……しょ……と～……♪　んん？　ふふ♪　お姉ちゃんのおっぱい気になるの～？　エッチだね～♪」

亜美「ん……いいよ～？　もっと～……お姉ちゃんの脱いでるとこ見てて？　ん……しょ……んん……ん、んん～……しょ……っとぉ～……♪」

亜美「ふぅ～♪　おまたせ～♪　ってあらあら～♪　君の体～、健康的で綺麗だね～♪」

亜美「傷一つない真っ白な体に～……とっても可愛いピンクのち・く・び♪　おちんぽと一緒で大きく勃起しちゃってるね～♪」

亜美「ふふ♪　こうやって～指の腹で挟んで～……そ～れ♪　クリクリ～♪　乳首クリクリ～♪」

亜美
「あぁん♪　な～に～？　腰ピ～ンって突き出しちゃって～♪　ふふ♪　思わずおちんぽへコへコしちゃうくらい気持ちいいんだ～♪」

亜美
「ふふ♪　ねぇ～え……？　もっとして欲しい？乳首ぃ♪　もっと虐められて気持ちよくしてほしい？」

亜美
「でもだ～め～♪　これ以上弄ってあげな～い♪だって～♪　君ってば本当に気持ちよさそうなんだもん♪」

亜美
「このままだとただのご褒美になっちゃうでしょ？　それにお姉ちゃんの事好きって言ってくれない子にサービスする気もないし～♪」

亜美
「ん……しょ……という事で～♪　お仕置き♪　始めよっか♪」

亜美
「ふふ♪　そんな不安そうな顔しないで？　大丈夫♪　痛くしないから♪　まぁちょ～っと苦しいかもだけど、そこはお仕置きだもん♪　頑張って耐えてね？」

亜美
「ほら、ソファの上に横になって？　そう♪　仰向けに天井を見る感じで♪」

亜美
「ふふ♪　じゃあお姉ちゃんも～……君のお顔に跨って～……♪」

亜美「ふふ♪　ど～お？　この体勢、シックスナインっていうんだけど～……こうやって～……君のお顔にお姉ちゃんのえっろ～いデカ尻を～……え～い♪」

亜美「あらあら～♪　君の可愛い顔にお姉ちゃんのお尻が乗っちゃったね～♪　どう？　苦しい？　お姉ちゃんのおまんこむにゅむにゅ押し付けられて苦しいかな～？」

亜美「えぇ？　ふがふがしても何言ってるか分からないよ～？　って、あん♪　やぁ～♪　唇がマン肉に当たって～♪　ん、あぁん♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　もう♪　こんなエッチでイケナイお口は～♪　お姉ちゃんのマン汁塗れのくっさいグロマンで～……塞いであげる♪　えい♪」

亜美「んふふ～♪　あぁ♪　イイ♪　とってもイイよ～♪　ん、あぁ～♪　やぁ～……♪　はぁ、はぁ♪　大好きな君をちり紙代わりにする背徳感……♪　あぁ♪　すっごい気持ちいいのぉ♪」

亜美「んふぅ～♪　ふぅ～♪　ふぅ～♪　あぁ♪　もっとぉ♪　もっとおまんこ擦りつけてあげるね～？」

亜美「お口もお鼻も～♪　ぜ～んぶおまんこで塞いじゃう♪　えい♪　えい、えい♪」

亜美「ほらほら♪　もっと舌伸ばして？　おまんこの中に残った空気吸い出さないと窒息しちゃうよ？　おまんこに押し潰されて死んじゃうよ？」

亜美「さぁさぁ♪　マンカス塗れのくっさいビラビラをかき分けて～？　パンツの中で蒸らされたくっさ～いマン汁じゅるじゅる吸い出して～？」

亜美「んあ♪　あ、あ、あぁぁ♪　来たぁ♪　君のちっちゃな舌がおまんこにぃ♪　んん♪　あぁん♪　あぁ♪　いいよぉ～？　その調子、んっ♪　あぁん♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　あうぅ♪　ふふ♪　いいよ～？　舌いっぱい動かして？　おまんこの形を広げるように～、あん♪　そうだよぉ♪　上手上手～♪　おまんこペロペロ上手だね～♪」

亜美「って、こ～ら♪　お鼻がお留守だよ～？　ん～えい♪　えいえい♪　ふふ♪　ちゃんとクンカクンカして？　お姉ちゃんの誰にも嗅がせたことのない、くっさ～いケツ穴臭♪　いっぱいクンカクンカして？　お姉ちゃんのくっさい香りしっかり覚えて？」

亜美「ん……あぁ♪　はぁ、はぁ……♪　ふふ♪　あ～あ♪　犬みたいにクンクン鼻鳴らして～♪　そんなにちり紙扱いされるの嬉しいんだ～♪　あぁ♪　可愛すぎぃ～♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　ん、あぁ～♪　ねぇ、気づいてる～？　ふふ♪　君のおちんぽぉ♪　さっき射精したばっかりなのにまたおっきくなって～♪」

亜美「ん、あぁ……♪　すご～い♪　チン皮がどんどん剥けてきて……♪　はぁ、はぁ♪　ん、はぁ～……♪　あぁ♪　スン♪　スンスン……♪　すぅぅ～～～……♪　はぁぁ～～～……♪」

亜美「んふぅ～♪　マンコを舐めて……ケツ穴の匂いを嗅いで～……おちんぽ♪　勃起しちゃったんだね～♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　あぁ♪　可愛い……♪　それにぃ……♪　ふふ♪　とっても美味しそう♪」

亜美「ん、はぁ、はふぅ……♪　あぁ♪　そうだな～……君におまんこ食べてもらってばかりじゃ不公平だから……私も……ん～……ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　おちんぽ、いただいちゃうね♪」

亜美「はぁ～♪　あぁ♪　くっさ～～♪　包茎ちんぽくっさ～～♪　んん♪　はぁ、はぁ♪　あぁ♪　あ～～……むぅ♪　ん～♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美

「ん、はぁ♪　はぁ～……♪　あぁ♪　美味しいぃ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　ふふ♪　あぁ～♪　チン皮の中で熟成されたくっさいチンカスぅ♪　んん♪　あぁ♪　好きぃ♪　ショタのプリプリチンカスとっても美味しいね～♪」

亜美

「ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪　はぁ♪　美味しい♪　ん～ちゅ♪　れ～ろれろれろれろれろ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美

「こうやって～……チン皮と亀頭の間に舌をねじ込んで～……♪　ん、れ～～～～……んじゅ♪　じゅるる……んふ♪　れ～～ろれろれろ……んん♪　じゅるる♪　ん、ちゅぅぅ～～……♪　んじゅじゅ♪　じゅるる、じゅるるるぅぅ～～～～♪」

亜美

「んぷぷ♪　れ～ろれろれろ……んちゅ♪　じゅるる……ん、じゅる……れろ、れろれろれろれろ……んふふ♪　もっろ～♪　カリの段差まれ～……舌を這わせれ～……」

亜美

「んぷぷ♪　じゅるるるるぅ～～……♪　ん、れ～～♪　ん、れる……じゅるる♪　じゅる……じゅるじゅる……んれ♪　れ～ろ♪　れ～ろれろれろ♪　ん～～♪　れ～……♪　んじゅりゅりゅ……んん♪　れ～～……んちゅ♪」

亜美
「ん、んん♪　やぁ♪　ら～めぇ♪　ん、ムギュムギュぅ～～♪　ふふ♪　お姉ちゃんがチンカスしゃぶってるんだから～、暴れちゃだ～め♪」

亜美
「大人しくできない子は～……もっとおまんこで押し付けちゃうんだから♪　それ♪　マン汁でも飲んで大人しくして？　ムギュムギュ～♪　おまんこムギュムギュぅ～～♪」

亜美
「んふふ♪　あ～～む♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる♪　ん～ちゅ♪　れろ、れろれろれろれろ♪　ん～ちゅ♪　じゅるる♪　じゅる、んん、ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅりゅりゅりゅ～～♪」

亜美
「んちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　んふ♪　じゅるる♪　ん、ちゅ♪　ん～……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪　あぁ♪　ん～ちゅ♪　ふふ♪　あ～あ♪　君のくっさいチンカスでお口臭くなってるよ～♪」

亜美
「はぁ……ん、このままチンカスを口の中で混ぜて～……んん♪　くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪　ん、んふ～♪　ん……ごく、ごく、ごく、ごく……ぷはぁ♪　はぁ、はぁ～♪」

亜美「あぁん♪　チンカス美味しい～♪　んふぅ♪　れ～ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅるるるぅぅ～～～～♪　ん、ぷはぁ♪　あぁ♪　ショタちんぽで出来た新鮮なチンカスぅ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美「あぁ、ダメ～……♪　ん、ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　これぇ♪　君のチンカスと我慢汁のブレンドミルク飲んでたら～……ん、あぁ♪　お姉ちゃん、おしっこしたくなってきちゃった♪」

亜美「ふふ♪　ねぇ？　もし今、君の顔面におまんこ押し付けながらおしっこしたりしたらさ……どうなると思う？」

亜美「そう、このままおしっこ♪　今舐めてるおまんこ穴の少し上……おしっこの穴からちょろちょろ～～って黄色くてくっさ～いおしっこ出しちゃうの♪」

亜美「マン汁吸うので手一杯な君がおしっこまでかけられちゃったら……あぁ♪　もしかしたらお姉ちゃんの排泄物で溺れ死んじゃうかもしれないね～♪」

亜美「んん♪　でもぉ♪　大丈夫だよね？　素直で従順な君ならぁ♪　お姉ちゃんのおしっこも残さず飲んでくれるよね？　大丈夫だよね？」

亜美

「ん、あぁん♪　ふがふがって何言ってるのか分からないよ～♪　んん♪　あ、あぁん♪　それに、んん♪　そんなにおまんこ穴刺激されちゃ……あぁん♪　やぁ♪　だめぇ……♪　尿道緩んじゃう♪　お姉ちゃんの新鮮なおしっこ出ちゃうぅ♪」

亜美

「んん♪　んふぅ♪　あ、あ、あ、あぁぁ♪　ん、あぁん♪　はぁ、はぁ……♪　あぁ♪　おしっこぉ♪　おしっこ出しちゃうね？　ん、あぁ♪　おしっこぉ♪　大好きな君にぃ♪　んん♪　可愛い君の顔にぃ♪　ん、あぁん♪　おしっこ出るぅ♪　ん、出ちゃうぅぅ……♪」

亜美

「あぁ♪　あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あぁぁ♪　ん、あぁぁ♪　はぁ、はぁ♪　あぁ♪　で、出るぅ♪　んふぅ♪　出る出る出る出る……♪　んっきゅうぅぅぅ……♪」

亜美

「ん、あ、あ、あぁぁ……♪　ん、やぁ～……♪　あぁ♪　で、出てるぅ……♪　ん、んん♪　あぁ♪　おしっこ～……♪　ん、んふぅ♪　あぁ♪　ちょろちょろってぇ♪　ん、あぁん♪　君の顔にぃ……♪　ん、んん♪　あ、あぁぁ……♪」

亜美

「ここリビングなのにぃ♪　んひぃぃ♪　あぁ～♪　お漏らし気持ちいい……♪　んあぁ♪　好きぃ♪　おしっこ大好きぃ♪　はぁ、はぁ～……♪　ん、はぁぁ……♪　あぁ……♪」

亜美「ほらぁ……君もぉ♪　早く飲まないと窒息しちゃうよ？　うん♪　まだまだ出るから♪　ほ～ら♪　喉鳴らして？　いっぱいごくごくしてぇ♪」

亜美「ん、はぁ、はぁ♪　んん♪　今の君はお姉ちゃんの便所なんだからぁ♪　ん、あぁ♪　ほ～ら♪　ごくごく♪　ごくごくぅ♪　おしっこごくごく♪　おしっこごくごくぅ～♪」

亜美「んん♪　ふぅ～～……ふぅ～……ふぅ～……ん、あともうちょっとだけ……ん、あ、あ、あぁぁ……♪」

亜美「はぁ、はぁ……♪　あぁ……ん、んん♪　ふふ♪　はぁ～……♪　やっとおしっこ止まった～♪　ふぅ～……♪　トイレ以外でおしっこするなんて子どもの頃以来かも……」

亜美「君も大丈夫……？　って、あらあらあら～♪　目が完全にイっちゃって♪　んふふ♪　かろうじて意識はある感じかな？　ほらほら♪　目を覚まして？　目を覚ましなさ～い♪」

亜美「ふふ♪　おはよう♪　どうだった？　お姉ちゃんのおしっことマン汁の味♪　美味しかった？　それとも～……吐きそうなくらい気持ち悪かったかな？」

亜美
「あらあら♪　そっかぁ♪　喉鳴らしてお替り欲しがるくらい美味しかったんだ～♪　ふふ♪　あぁんもう♪　君ってばお姉ちゃんの想像以上の変態ショタ君だね～♪」

亜美
「んん～♪　ならお望み通り～♪　えい♪　えいえい♪　ちり紙はちり紙らしく～♪　おしっこした後のおまんこをお掃除して貰わなくちゃね♪」

亜美
「ほら、舐めて？　お姉ちゃんのおまんこ♪　黄色いおしっこがポタポタ垂れるくっさ～いおまんこ♪　ペロペロ犬みたいに舐めて綺麗にして？」

亜美
「ん、あぁん♪　ふふ♪　そう♪　その調子♪　んん♪　あ、あぁん♪　ふふ♪　上手だよ～？　ん、あん♪　あ、そこ……ビラビラの間、ん♪　そこは汚れが堪りやすいから入念にね？」

亜美
「はぁ、はぁ……ん、あぁ♪　そう♪　ペロペロってして？　ん、あん♪　ふふ……♪　あぁ♪　それぇ……♪　ん、あぁ♪　くすぐたくて気持ちいいよ～……♪」

亜美
「って、ん、あ、あぁん♪　ちょ、ちょっとぉ♪　ん、んふぅ♪　そんな、ケツ穴まで舐めなくていいからぁ♪　ん、あぁん♪　だ、ダメ～！　ん、ストップストップ！　ん、えいっ！」

亜美
「はぁ、はぁ……♪　んもう！　見直したと思ったらすぐ調子に乗るんだから～……ふふ♪　でもそういう所も可愛くて好きだけど♪」

亜美
「ん、はふぅ～……♪　って、えへへ♪　ごめんね？　このままだと本当に酸欠で窒息しちゃうかもしれないから……ん、しょ……っと～……」

亜美
「あ～あ♪　君ってば酷い顔だね～♪　唇にはお姉ちゃんの汚いマンカスの塊が付いて、それに黄色いおしっこと泡立ったおまんこ汁でベットベト♪　あぁ♪　とっても可愛そうで……とっても可愛いな～♪」

亜美
「んふふ♪　ねぇ、君は何で犬が電柱におしっこをするか知ってる？　それはね？　ここは俺のテリトリーだ～ってマーキングしてるからなの♪」

亜美
「そう♪　お姉ちゃんも同じ♪　こうやって君の顔におしっこをかけて、君はお姉ちゃんの物だってマーキングしちゃったの♪　君は妹の物じゃなくて、お姉ちゃんの物だって♪　誰にも渡さないって宣言したの♪」

亜美
「だってぇ♪　私、本気で君の事好きになっちゃったんだもん♪　こんなに素敵で可愛い子、妹の彼氏のままじゃもったいないもん♪」

亜美

「ん、あぁん♪　だ～め♪　逃げないで♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　ふふ♪　最後はお姉ちゃんとセックスして、君をお姉ちゃんだけの物にしてあ～げ～る♪」

トラック０６

亜美「ん、あむ♪　ちゅぷ♪　んちゅ♪?じゅるる♪
ん～ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　ん、ちゅ♪
じゅるる♪　んちゅ♪　ちゅ、ちゅ……ぷはぁ♪
はぁ、はぁ♪」

亜美「ふふ♪　おちんぽぉ♪　このままぁ♪　ん、あぁ♪　お漏らししたてのあったかいおまんこで食べちゃうね？」

亜美「君の包茎ショタ童貞……彼女より先にぃ……ん、あぁん♪　お姉ちゃんのくっさ～いお漏らしおまんこで～……ん、あん♪　いただいちゃうから……♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　うん♪　人生で一度っきりのおちんぽ童貞♪　チンカス童貞♪　包茎童貞♪　あぁ♪　ショタ童貞ぃ～♪　いっただきま～すぅ♪」

亜美「ん、ん、んん！　ん、っきゅぅぅぅぅぅ……♪
ん、かはぁ！　はぁ、はぁ……♪　ん、あぁ～♪　来っ、たぁ～……♪　あぁ♪　ふふふ♪　これが君のおちんぽなんだね～♪」

亜美「はぁ、はぁ……♪　んん♪　あぁ♪　ショタのお子様ちんぽぉ♪　ん、おまんこのひだがチン皮の間からおちんぽに吸い付いてる分かっちゃうぅ♪」

亜美
「ふふ♪　おまんこが意志を持ってるみたいに、ん、あん♪　君のおちんぽ離さないぞ～って絡みついてるの～♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　あぁ♪　パイパンマンコとパイパンちんぽがキスして……んふふ♪　ね～え？　お姉ちゃん達もおまんことちんぽみたいにキスしよ～？」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ほ～ら♪　こっち見てぇ？　ん～～……ちゅ♪　あむ♪　あむあむ……んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる、んふふ♪　ん～……じゅる♪　じゅりゅりゅりゅりゅ～～～～♪　ん、ちゅ♪　ちゅぱぁ♪　はぁ、はぁ♪」

亜美
「あ、あん♪　やぁ♪　おまんこの中で暴れて、ん、あ、あぁ♪　ふふ♪　君の興奮が手に取るように分かる……あぁ♪　嬉しい♪　お姉ちゃんで喜んでくれてすっごく嬉しいよぉ♪」

亜美
「はむ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　んちゅ♪　ん、ん～……ちゅ♪　ちゅぷ♪　れろ、れろれろれろれろ……♪　ん、ちゅ♪　ちゅ、ちゅぅぅ～～……ちゅぱぁ♪　はぁ、はぁ♪」

亜美
「ふふ♪　このまま～……キスしながらおまんこ、パンパンしてあげるね～？　初めてのセックス……そ～れ～も～♪　ゴム無し本番生セックス♪　楽しんで♪」

亜美
「ふぅ、ふぅ♪　ん、んふぅ～♪　は～……んむ♪
んちゅ♪　じゅる♪　じゅるる♪　ん、ちゅ♪
れろ、れろれろれろれろ♪　ん～ちゅ♪
ちゅ、ちゅぷ♪　れ～ろれろれろ♪　んじゅ♪
じゅる♪　じゅるるるぅ♪」

亜美
「ん、んふぅ♪　ちゅぷ♪　ちゅ、んちゅ♪　れ～
ろ♪　れろれろれろれろ♪　ん、ちゅ♪　ちゅぷ
ぷ♪　ん、ちゅぅぅ、ちゅ♪　ん、ぷはぁ♪
はぁ、はぁ～♪」

亜美
「あぁ♪　どう？　ん、あん♪　ふふ♪　お姉ちゃ
んの生おまんこ～♪　ん、あぁん♪　ふふ♪　お
ちんぽを上下に擦るようにぃ♪　ん、しょ♪
ん、しょ～♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ん、あぁ♪　すっご～い♪　ねぇ
見える？　こ～こ♪　君のおちんぽおまんこで食
べてるのぉ♪　はぁ、はぁ♪　おちんぽパンパン
♪　おちんぽパンパンってぇ～♪」

亜美
「ふふ♪　あぁ♪　パンパンする度にぃ♪　さっき
出したおしっこが糸を引いてぇ……♪　ん、あん
♪　厭らしくぅ♪　んん♪　おまんことおちんぽ
を繋げてくれて～……♪　ん、あん♪　やぁ♪
気持ちいいよ～♪」

亜美

「はぁ、はぁ♪　ねぇ♪　お口もぉ♪　涎で繋がろう？　いっぱいぃ♪　れろれろ～ってぇ♪　おまんこと一緒にぃ♪　ん、んん♪　んふぅ～～♪　はぁ、はぁ♪　一つになろう？」

亜美

「はむ♪　ん、ちゅ♪　れ～ろれろれろれろれろ～♪　じゅるる♪　じゅるるる～～♪　ん、ちゅ♪　れ～ろれろれろ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　じゅる……ん、ちゅ♪　れろ、れろれろ♪　ちゅぷぷ♪　んちゅ♪」

亜美

「はぁ、ん、ちゅ♪　じゅるる♪　じゅるじゅるじゅるじゅる♪　んぷっ！　ん、んん！　んふふ♪　はぷっ♪　んん♪　いいよ～？　もっろ～舌伸ばして～？　おねえひゃんがしゅってあげりゅ……♪」

亜美

「んん～♪　じゅるる♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅ～～～～～～～♪　ん、んん♪　れ～～～♪　んじゅじゅ♪　じゅりゅりゅりゅ♪　じゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅうぅぅ～～～～～～～♪　ん、ぷはぁ♪」

亜美

「ん、じゅるるる♪　ん、んふぅ♪　ん、ごく、ごく……♪　ぷはぁ♪　はぁ、はぁ♪　ん、あ、あぁ～♪　ん、あぁん♪　ふ、ふふふ♪　はぁ、はぁ♪　美味しい……♪　ん、じゅるる♪　んふぅ～♪」

亜美
「はぁぁ～～♪　ん、ふ、ふふ♪　ん、やっ、あぁん♪　や♪　ちょ、ま、待って……♪　んん♪
そんな、またおちんぽおっきくなって……！？
あ、あん♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　んもう♪　キスでまたおっきくしちゃったんだぁ♪　ふふ♪　ん～ちゅ♪　変態さんめ～♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　あぁ♪
可愛い♪　可愛い可愛い可愛い可愛いぃ～♪」

亜美
「ん、ふぅ、ふぅ……♪　あぁ♪　凄い……♪　おまんこの中でおちんぽの形が分かってきて……って、ん？　あれ？　これ……もしかして、包茎ちんぽ……おまんこで剥けちゃったの？」

亜美
「ん、あ……剥けたチン皮の段差分かる……
あぁぁぁ♪　あらあらあらぁ♪　あはは♪
あぁ♪　初めてのセックス……本番生セックスでチン皮ムキムキできたんだ～♪　あぁ♪　これで大人ちんぽになれたね～♪　ふふ♪　おねでとう♪　ん～ちゅ♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　んん？　おちんぽ熱くて痛い～？
　そうだよね～♪　ず～っとチン皮の中で守られてきた敏感ちんぽだもんね～♪」

亜美「初めて顔を出したと思ったらいきなりお姉ちゃんのおまんこプールの中じゃビックリしちゃって当然か……♪　ふふ♪　そうだな～♪　どうしよっかな～♪」

亜美「ま～あ？　このままおまんこプールでおちんぽ泳がせてあげてもいいんだけど～……お姉ちゃん、剥きたてちんぽを弄られてイキ狂う君の顔も見たいんだよね～？」

亜美「んふふ……ねぇ、どうされたい？　お姉ちゃんに～……この剥きたておちんぽ♪　どうされたいの～？」

亜美「ふ～ん？　そっか～♪　チン皮剥きたてで痛いからおまんこプールでゆっくりしたいんだ～……ふ～ん？　そっかそっか～……♪」

亜美「う～ん、どうしよっかな～♪　別に～こうやって～……おまんこを持ち上げて～……ん～……えいっ！！」

亜美「あらあら～♪　歯食いしばって辛そうだね～♪　ふふ♪　ねぇ、分かる？　君のおちんぽはね？　お姉ちゃんのおまんこに人質に取られてるんだよ？」

亜美「あ、でもこの場合は人質じゃなくて……おちんぽ質？　ふふ♪　まぁ何でもいっか♪」

亜美「とにかく、お姉ちゃんの気分次第で君のおちんぽイキ狂わせることも出来るし、気持ちよくおちんぽ抜いてあげる事も出来るの♪」

亜美「だから～……分かるよね？　うん♪　そう♪　お姉ちゃんのいう事聞いてくれれば、剥きたておちんぽ抜いてあげる♪」

亜美「ふふ♪　別に難しい事は言わないよ？　ただ一つ、今この場で約束してくれればいいの♪」

亜美「ね～……約束して？　今日から妹とは別れてお姉ちゃんと恋人になるって♪　この先ずぅ～っとお姉ちゃんと一緒になって？　お姉ちゃんと結婚して？」

亜美「もし妹を捨ててお姉ちゃんと付き合ってくれたら毎日エッチしてあげるよ？　朝から晩まで♪　ご飯食べてる時もゲームしてる時も、お風呂に入ってる時も♪」

亜美「ず～っとず～～～っと、お姉ちゃんのおまんこ使っておちんぽ気持ちよくしてあげる♪」

亜美「ね？　いいでしょ？　妹なんか捨ててお姉ちゃんと付き合おう？　結婚しよ～？」

亜美「じゃないと～……ん、えい！！」

亜美
「ふふ♪　おちんぽ抜いてあげないよ～？　お姉ちゃんのおまんこでおちんぽ廃人になっちゃうよ？」

亜美
「ほ～ら♪　お姉ちゃん好きって言って？　言って？　ねぇ？　言って？　言って～？　ほら♪　ほらほら♪　ほらほらほらほらほらほらほらほらほらほら～～……♪」

亜美
「あ……あ、あ、あ、あぁぁぁ……♪♪　ん、あぁぁ♪　ふふふ♪　あぁ～……♪　そっか～♪　やっと言ってくれたね～～♪　あぁ♪　好きぃ♪　お姉ちゃんも好きだよ～♪」

亜美
「ん、しょ……ん……えへへ♪　じゃあ♪　恋人同士になった記念に～♪　改めてキスしよっか♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　あぁ♪　好き♪　大好き～♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　はぷ♪　んちゅ♪　れろ、れろれろれろれろ♪　ん～ちゅ♪　じゅるる♪　じゅる♪　ん、ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「あぁ♪　やっと恋人同士のラブラブキスが出来たね～♪　ふふ♪　お姉ちゃん、感極まってマン汁お漏らししちゃった♪」

亜美
「はぁ、はぁ～♪　君は約束通り恋人宣言してくれたし、次はお姉ちゃんも約束を守らないとね♪　ふふ♪　そう♪　や～く～そ～く♪　言ったでしょ？　おちんぽ抜いてあげるって♪」

亜美
「ほ～ら♪　こうやって～腰を浮かせて～……ん、しょ……あん♪　分かるかな～？　チン皮が剥けた敏感ちんぽがぬぷぬぷ～って抜けてくよ～？」

亜美
「はぁ、はぁ……♪　ん、あん♪　もうちょっとで～……あぁ♪　キタキタ♪　おちんぽの先っぽが抜けてきて～……んふふ♪　んん～……♪　えい！！」

亜美
「あははは♪　あ～らあらあら～♪　ピストンでアへ顔晒しちゃったね～♪　ふふふ♪　このまま～♪　不意打ちおまんこピストンで剥きたてちんぽパンパンしちゃお♪」

亜美
「んふふ～♪　あぁん♪　あぁ♪　敏感ちんぽしゅごいね～♪　ん、んふぅ♪　はぁ♪　ん、あん♪　んふぅ♪　あはははは♪　あぁ♪　気持ちいい♪　剥きたておちんぽとっても気持ちいいよぉ♪」

亜美
「んぁ♪　あ、あ、あ、あ、あ、あ、あぁ～♪　ふふふ♪　えぇ～？　な～に～？　約束が違う～？　ふふ♪　そんな事無いよ～？　お姉ちゃんはちゃんと約束守ってるもん♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ん、はぁ、はぁ～……♪　ほら、思い出して？　お姉ちゃんはこう言ったの♪　剥きたておちんぽを〝ヌいてあげる〟って♪」

亜美
「そうだよ～？　誰もおまんこからおちんぽ抜いてあげるなんて言ってないの♪　お姉ちゃんはね～♪　君がおちんぽぴゅっぴゅできるように気持ちよくヌいてあげるって意味で言ったの♪」

亜美
「だから～♪　おまんこでいっぱいパンパンして～♪　ぴゅぴゅぴゅぴゅ～～っていっぱい出させてあげる♪　おちんぽ気持ちよすぎて痛いかもだけど～♪　頑張って金玉の精子ぴゅっぴゅしてね？」

亜美
「んふぅ♪　はっ、はっ、はっ、はぁ～♪　ん、あぁ～ん♪　ふふ♪　おちんぽ痛い？　剥きたてちんぽパンパンされて痛いかな～？　ふふふふ♪」

亜美
「あぁん♪　泡吹いておかしくなってる君の顔ぉ♪　あぁ♪　虐めたくなるくらい可愛いショタのアへ顔ぉ♪　んん♪　可愛いなぁ♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　ん、あ、あ、あ、あ、あぁん♪　はぁ、はぁ♪　んふふ♪　あぁ♪　おまんこでパンパンしすぎてぇ♪　ん、あ、あぁん♪　おちんぽ、赤くはれてきちゃったね～♪」

亜美「ふふ♪　でも止めてあげな～い♪　はぁ、はぁ♪　ふふ♪　今日は一日中ぅ♪　ん、あん♪　お姉ちゃんのくっさいグロマンでショタちんぽ犯してあげるんだからぁ♪」

亜美「はぁ、はぁ♪　ん、あぁ♪　あ、あ、あ、あ、あぁん♪　こんな所で、んん♪　気絶なんかしないでね～？　ふふ♪　はぁ、はぁ♪　ん、んふぅ♪　ん～ちゅ♪　れろれろ♪　んちゅ♪　じゅるる♪　ん～ちゅ♪」

亜美「ん、はぁ、はぁ♪　って、あ、あれ？　腰痙攣しちゃって……ふふ♪　気持ちよすぎて腰が勝手に浮いちゃってるんだ♪　あはは♪　か～わい～♪」

亜美「じゃあ一緒にパンパンしよっか♪　それそれ♪　おちんぽパンパン♪　おちんぽパンパン♪　それそれ♪　それそれ～♪　もっと強く打ち付けないと子宮まで届かないよ？」

亜美「ほ～ら♪　剥きたてちんぽ奥まで突いて？　お姉ちゃんの事孕ませて～♪」

亜美「おちんぽパンパン♪　おちんぽパンパン♪　ん、んふ～♪　はぁ、はぁ♪　ん、えい♪　えいえい♪　おまんこで～♪　おちんぽを～……えい♪　えいえい♪」

亜美「ん、はぁ、はぁ～……♪　ふふ♪　ねぇ、聞こえてる？　お姉ちゃん達のセックスしてる音♪　パンパン♪　パンパンってリビング中に響いてるドスケベな音♪」

亜美「ん、あぁん♪　お姉ちゃん達のスケベ汁もソファとかカーペットに散らばって～♪　はぁ、はぁ♪　これぇ♪　もう匂いも汚れも取れないね～♪」

亜美「もしこの場で妹が帰ってきたら即ばれ♪　掃除しても残り香でバレバレ♪　どうあがいても妹にバレちゃうね～♪」

亜美「ん、んん♪　はぁ、はぁ……♪　で～も～♪　もう妹とは彼氏彼女の関係じゃなくって～……も・と・カ・ノ♪　だもんね～♪　なら、ん、あん♪　別にぃ♪　問題ないっか～♪」

亜美「だって～♪　今カノのお姉ちゃんと～♪　将来結婚を誓い合ったお姉ちゃんと～♪　ラブラブセックスしてるだけだもん♪　ん、んん♪　こ～んな純愛エッチぃ♪　誰も文句言えないよね～♪」

亜美「ていうか～……ん、あぁん♪　そっか～♪　お姉ちゃんと君が結婚したら～♪　はぁ、はぁ♪　妹はぁ、君の妹にもなるんだよね～♪　ん、んあ♪　あぁ♪　ん、あ、あ、あぁ……♪」

亜美
「んふぅ♪　はぁ、はぁ♪　それは～、ん、あん♪
　とっても素敵な事じゃないかな～♪　元カノが義妹になるなんて～♪　ん、あん♪　少女漫画みたいで、あん♪　とっても楽しそう♪」

亜美
「はぁ、ん、あ、あ、あ、あぁ♪　ん？　ん！？　んっ！　きゅうううぅ！？　やっ！　あ、あぁ～ん♪　やぁ♪　そんな急におちんぽ、ん、あ、あん♪　おっきくぅ……♪　んふぅ♪　あ、あ、あ、あぁん♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　あは♪　そっか～♪　元カノが義妹になるの想像して～……ん、あぁん♪　はぁ、はぁ♪　おちんぽにキちゃったんだね～♪　ふふふ♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　んん♪　でも～♪　お姉ちゃんと遅かれ早かれ、ん、結婚するんだから～♪　受け入れなきゃ、ん、あぁん♪　ダメだよ～？　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

亜美
「って、やん♪　ふふ♪　もう我慢できない？　おちんぽぴゅっぴゅしそう？　ん、はぁ、はぁ……♪　そっか♪　うん♪　いいよ～？　お姉ちゃんのおまんこで膣中出し決めちゃおっか♪」

亜美
「はぁ、はぁ♪　お姉ちゃんもぉ♪　ん、んふぅ♪
　思いっきり腰振ってぇ♪　搾り取ってあげる♪
　ん、そ～れ♪」

亜美
「ん、はぁ、はぁ、はぁ、はぁ♪　ん、ほら♪　ほらほらほらほら♪　ん、ん、ん、んん♪　はぁ、はぁ♪　イッちゃえイっちゃえ♪　えい♪　えいえいえいえい♪」

亜美
「おまんこパンパン♪　おまんこパンパン♪　それそれ♪　パンパン♪　パンパン♪　さぁさぁ♪　おちんぽイって？　おちんぽイッて？」

亜美
「うん♪　そう♪　そのまま♪　ん、あ、あ、あぁ♪　おまんこの中でいいからぁ♪　ん、はぁ、あぁん♪　そう♪　子宮にぃ♪　君の可愛いショタちんぽで～♪　剥きたてチンカスちんぽで～♪」

亜美
「ん、んふぅ♪　お姉ちゃんもぉ♪　一緒にイってあげるから～♪　ん、ね？　はぁ、はぁ♪　おちんぽぴゅっぴゅしよ？　痛くて気持ちいい最高のぴゅっぴゅ♪　初めてのおまんこぴゅっぴゅしよ～？」

亜美
「あ、あ、あ、あ、あ、あ、あぁぁぁ♪　はぁ、はぁ♪　ほらぁ♪　ほらほら～♪　イケ♪　イッちゃえ♪　おちんぽイケ♪　お姉ちゃんにぃ♪　大好きな恋人おまんこに無責任膣中出しぴゅっぴゅしちゃえ～♪」

亜美
「そ～れ♪　イ～ケ♪　イ～ケ♪　イ～ケ♪　イ～ケ♪　イケ♪　イケ♪　イケ♪　イケ♪　イケイケイケイケイケイケイケイケ♪　イっちゃえ～～♪」

亜美
「ぴゅっぴゅ♪　ぴゅっぴゅ♪　ぴゅっぴゅ♪　ぴゅっぴゅ♪　ぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅ♪　ぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぅぅぅぅうぅぅ～～～～♪」

亜美
「ん、きゃああぁぁああぁん♪」

亜美
「あ、やっ♪　これすご♪　ん、あぁん♪　やぁ♪　あぁ♪　お腹の中にぃ……ん、ひゃん♪　やぁ♪　おまんこの奥ぅ♪　あぁ♪　ショタちんぽから精液ぴゅっぴゅ来てるの分かる……ん、あぁん♪　温かいチンカスミルクが来てるの分かるぅ♪」

亜美
「ん、んふぅ～♪　あぁ～♪　ん、やぁん♪　んふふ♪　はぁ、はぁ～～♪　あぁ♪　気持ちいい♪　ん、あぁ♪　おまんこプールで精子が泳いでるの……ん、あぁ♪　お腹で感じる……はぁ～～……♪　あぁ♪　幸せ～♪」

亜美
「大好きな君の精液でお腹いっぱいにしてもらえて……ん、あぁん♪　すっごく幸せだよ～♪　ん、んふぅ～♪　はぁ、はぁ～……♪　あぁ♪　好きぃ♪　大好きぃ～♪」

亜美「ん～ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪　んふふ♪　しゅき～♪　ん～ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　はぁ～……ん～ちゅ♪　れろ、れろ……んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　ん、ちゅうううう～～～～……ちゅぱぁ♪　はぁ、はぁ♪」

亜美「あはは♪　すっごい蕩けた顔～♪　初膣中出しそんなに気持ちよかったの？　うんうん♪　そっか～♪　良かったね～♪」

亜美「ん、な～ら～……このままもう一回戦、しよっか♪　うん♪　またお姉ちゃんとセックスするの♪」

亜美「えぇ？　だって～……お姉ちゃん言ったでしょ？　一日中犯してあげるって♪　もしかしたらセックスしてる途中で妹が帰ってくるかもだけど……それでも止めてあげない♪」

亜美「むしろ妹に見せつけちゃおっか♪　もう君はお姉ちゃんの物だ～って♪　お姉ちゃんと結婚するんだ～って♪　ふふ♪　あぁ♪　楽しみになってきたね～♪」

亜美「ん～ちゅ♪　ふふ♪　愛してる♪　この先一生離さないし、誰にも渡さないんだから♪　好き、大好き～♪　ん～～……ちゅ♪」